

小学校【外国語科】「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

岐阜教育事務所

1 主体的・対話的で深い学び（小学校学習指導要領解説 総則編 P77一部抜粋）

- 「主体的な学び」… 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる。
- 「対話的な学び」… 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める。
- 「深い学び」… 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう。

2 「外国語科に係る見方・考え方」を働かせとは（小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編）

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他社との関りに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。

3 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善例

つかむ	<ul style="list-style-type: none"> ・設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する。 	<p>【主体的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が興味、関心を示すような場面や状況を提示する。 ・動画、写真、図表などを活用する。 ・ALT を活用したコミュニケーションモデルを提示する。 ・他の教科や領域で学習した内容を活用する。 ・既習表現を活用しながら、コミュニケーションモデルを示して、本時の目指す姿を確認する。 ・学習課題を達成する活動を行うにあたり、必要な表現や語句を児童に想像させる。 ・児童が場面を想像しやすいように、生活経験がある内容を対話場面とする。 ・より本当の場面に近い対話となるように、工夫された教材を使用する。 ・自己の成長を感じ、次時につながる評価を行う。 ・相互評価を行う。 ・新たに発見したことや知ったことを仲間と喜び合う。 	<p>【対話的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スモールトークにおいて、既習表現を想起・活用できるような話題を提示する。 ・スモールトークにおいて、対話の継続性を促すような価値付けを行う。 ・生活経験のある話題や内容から、児童が興味や関心のある話題を取り上げる。 ・インフォメーションギャップのある活動を行う。 ・自分の思いや考えを伝え合うことができる活動を設定する。 ・与えられたフレーズだけでなく、即興的なやり取りになるような状況を設定する。 ・コミュニケーションの手助けとなるような、写真やイラスト、実物を使用できるようにする。 	<p>【深い学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間の「見方・考え方」に触れることができるように、交流の場を必要に応じて設ける。 ・自分の考えを深めることができるように、複数回の対話活動を行うようにする。（言語活動→指導→言語活動→指導…） ・活用した言語表現や得られた情報の内容等やコミュニケーションしての感想を交流することで、学びを実感できるようにする。 ・仲間の発表の表現内容と自分の表現を聞き比べながら、新たな気づきが増えるように助言する。
深める	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる。 ・目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う。 			
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> ・言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う。 			

「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養